

## 当日のご質問への講師のご回答

No.	講師	質問	回答
1	鈴木 智弓氏 (JADA 医療・科学部)	PRP療法はドーピングに該当しないとWADAとFAQにてカクニンできましたが、PRP-FDも同様にドーピングに該当しないという理解でよろしいでしょうか。成長因子の放出が多いとAAFにひっかかるということはあるのでしょうか。	PRP-FDはPRPをフリーズドライ加工したものであるという認識です。本件は国内で昨今治療法として利用されることが多くなりました。WADAへ照会も行ってありますが、PRP療法に比べて知見が乏しいため、製品や治療ごとの検証が必要との見解を現時点では得ています。新たな情報がありましたら、必要に応じて日本アンチ・ドーピング機構より情報提供させていただきます。
2	鈴木 智弓氏 (JADA 医療・科学部)	献血バスで行う献血は、献血ルームで行うものとは別と考えるべきか？よろしくお願い致します。	献血バスも献血ルームと同様の取扱いという解釈です。しかし、各国の事情や世界統一ルールということを加味し、日本の事情を説明のうえ現在WADAへ照会しています。新たな見解が得られた際には、必要に応じて日本アンチ・ドーピング機構より情報提供させていただきます。
3	川副 陽子氏 (佐賀県薬剤師会)	・スポーツファーマシストとそうでない人の温度差はどのように埋めたのですか？ ・アンケートの結果でドーピング物質だとわかってても飲むのは、なぜだと思えますか？わかる範囲で教えて下さい。	・温度差を埋められたかどうかはわかりませんが、まずは医師の処方でもドーピング禁止物質があることの説明、市販薬はTUE申請ができないことなど基本的な研修を行いました。 ・ドーピング禁止物質だとわかって飲む選手はほぼいないと思います。調べ方や問い合わせの仕方にも問題があるのではないかと考えています。
4	川副 陽子氏 (佐賀県薬剤師会)	テニスのシナー選手が、サポートスタッフが使用する市販のスプレーに含まれる禁止物質が皮膚を介して吸収され、3か月の出場停止になるケースがあった。他の職種のサポートスタッフにもアンチ・ドーピングについての教育が必要だと感じるが、具体的にどのようにすべきか考えがあれば伺いたいです。	サポートスタッフにも教育が必要と思います。佐賀県の取組としては、競技団体主催の研修会に、トレーナーや保護者にも参加していただいておりますが、実際に参加は少ないようです。今後の課題です。トップアスリートを目指す以上、自身のサポートスタッフにも早期教育が必要だということを理解していただけるように周知していきたいです。
5	川副 陽子氏 (佐賀県薬剤師会)	おつかれさまです。各競技団体とファーマシストとの専属においての選定方法（希望者、抽選、アスリートの希望等）・アスリートへの研修会へのアプローチと時間設定（評価と課題） ・スキルアップ・研鑽への対策？（医師会・歯科・栄養士とのコミュニケーションのとり方）	・アプローチは、県スポ協会にお願いし、時間設定は、各競技団体で行い、その時間帯に行けるスポーツファーマシストを派遣しております。 ・スキルアップ研修会として年2回、1回目は県スポ協アンチ・ドーピング部会で医師、歯科医師、栄養士と一緒に活動を行っていることから、国スポ前にスポーツファーマシストのみの研修、講師として、医師、歯科医師、栄養士にお願いし、2回目は会員にも声掛けし、実務講習後に禁止表国際基準の変更点の説明、事例のグループディスカッションを行っている。

No.	講師	質問	回答
6	川副 陽子氏 (佐賀県薬剤師会)	国体での相談の中にサプリメントがあります。サプリメントは食品で 食品製造時に医薬品の使用は禁じられており、サプリメントでのドーピングはありません。国体でのサプリメントの相談は不要です。何故相談があったのか？ドーピングの禁止物質はすべて医薬品	ドーピング禁止物質の中には、海外製やネット販売などのサプリメントに含まれるケースもありました。「サプリメントは危険リスク」の考え方はわかりません。ただ服用されている方もいらっしゃいます。これからは、なぜサプリメントが必要なのか等の相談にもものっていきたいと思います。
7	川副 陽子氏 (佐賀県薬剤師会)	医師向けの研修会で、医師の反応や質問などはいかがだったでしょうか？またそこから連携した事例はございましたでしょうか？	医師の処方に対して、薬剤師からのフォローはあるのかどうかの質問がありました。また、医師より、スポーツファーマシストが所属している薬局はどこかとの問合せをいただいております。今後も、医師から連絡があった場合には、内容、回答も含め、薬剤師より情報センターに連絡するように徹底していく予定です。
8	福島 史帆実氏 (フェンシング選手)	サプリメントに対してアンチ・ドーピングの意識はどのようにお持ちでしょうか？また周囲の選手などは、どのように感じているように思えますか？	私はサプリの必要性をあまり感じていませんでしたが、必要な場合は自分で調べたり、専門の方に確認したりすることが重要だと考えていました。周囲の選手がサプリアに対してどのように意識しているか詳しい事は分かりませんが、ドーピングに関して正しい知識を持ち、適切に対処する事が大切だという認識は同じではないかなと思います。
9	福島 史帆実氏 (フェンシング選手)	初めてADの研修を受けたのはいつ頃かADの意識が高まったきっかけがあれば伺いたいです	初めて研修を受けたのは大学生の時です。実際にドーピングの検査を行うようになり意識が高まりました。
10	福島 史帆実氏 (フェンシング選手)	一番最初にアンチ・ドーピング講習会をうけたのはいつですか？1回の説明で理解できましたか？その時と比べて、アンチ・ドーピング活動に対する理解は、どのように変わってきましたか？	最初に講習を受けたのは大学生の時です。1回の説明ですべてを理解するのは難しかったですと思いますが、自分の競技生活、そして周りの方にも迷惑をかけてしまうということで薬、サプリアについての認識が変わりました。ドーピングは自己責任でしっかり気を付ける必要がありますが、だからといって全てを避けるのではなく、正しい知識を持ち適切に対処をすれば問題ないものもあるので、薬、サプリアなどを利用する際は成分を確認したり専門の方に相談しながら活用することが大切だと思いました。